

平成 27 年度 第 2 回安城市環境審議会分科会議事録要旨

日 時	平成 27 年 6 月 9 日(火)午後 1 時 25～2 時 55 分	
場 所	安城市文化センター 2 階 第 22 会議室	
出席者	委 員	飯尾委員、杉浦朗委員、鳥居委員、神谷委員、加藤委員、竹内清晴委員
	事務局	環境部長、環境首都推進課長、環境首都推進課課長補佐、環境首都推進課環境保全係長、環境首都推進課職員
次 第	1 副市長あいさつ 2 議題 (1) 環境基本計画の体系案について(資料 1) (2) 各分野の新規施策の方向性(資料 2) 3 その他	

1 副市長あいさつ

2 議題

(1) 環境基本計画の体系案について(資料 1) 事務局より説明

【飯尾委員】

現行計画に比べ、中項目が大きく変わったということか。

生活環境が「健全な生活環境」から、「快適な生活環境」に変わったのは、市が環境を良くするのではなく、市民が行動することをイメージしたのか。現行計画の作り方は、「皆さんはどこに引っかかるか」と考えさせるものだったが、市民の生活感のあるものへと変わった。

事務局：これまで、補助金は出しているが、使うのは市民の自由、のような対応だった。活動団体以外の市民への働きかけに取り組みたい。

【飯尾委員】

中項目が簡単になったのは良いことだ。時代にマッチしている。東日本大震災後、自分の暮らしを変えざるを得ない。

【神谷委員】

現行計画⑩の「生活型公害の防止」はどこに該当するのか。油ヶ淵の水質は、生活排水の影響が一番大きい。

事務局：番号⑩が抜けていました。「快適な生活環境」に「生活型公害の防止」として入れています。生活環境というと公害だと考える。公園がうるさい等の生活型公害の考え方で、水質汚濁も生活環境に含めた。

【飯尾委員】

具体的な事例で、明治用水も入れて良い。水のつながり、水は作っているという認識が必要では。

事務局：水というと水資源として、資源循環で扱っている。水資源という考え方では、水源のある上流と下流の間に暮らしがある。

【飯尾委員】

電気、ごみにしても、みな、悪気があって使っている人はいない。暮らしがすべての起点、上流に対しても、下流に対しても。起点に立てば、あなたのやることが見えてくる。

【神谷委員】

明治用水に関して、自分の畑に水をまいているが、聞いた話では、転作して畑にすると井戸の水が枯れ、水田にすると井戸が復活するという。これも水循環ではないか。

【竹内委員】

現行と変わりすぎているので、農業に関することが少ないが、良いか。農業は都市景観なのか。

事務局：農業というくくりで進めるか、悩んでいた。田んぼアートは景観として扱う、地産地消は環境に良いことであるし、アグリライフ等を入れたい。生物多様性は、田んぼが環境学習の場になっている。環境保全型農業は国と県で補助金が出て取り組んでいる。榎前町の取り組みは入れたい。

【飯尾委員】

安城の特徴は、工業都市に農業があること。生活基盤になっているので、安城としての農業の位置づけをしたい。

【竹内委員】

農地は、地下水の涵養、気温調整など、環境に果たす役割が大きい。その点を話した方が市民に伝わりやすいと思う。

【神谷委員】

前回は話したが、ランドデザイン、最終的なイメージを描く必要がある。

【飯尾委員】

最終的には計画書に、これならできる、これならやれる、出来そうだ、ということ並べる。

チューリッヒにバッハコンセプトというものがある。水路を市民にアダプトし、家の前の水路を掃除する代わりになんでもやって良い、掃除しないなら何もしない、

という制度。いい話だと思ったら、明治用水でもやっているところを見せてもらった。「良い子はここで遊ばない」ではなく、思い切って「水辺で遊ぶのは良い子」にしては。

【竹内委員】

榎前の神社前のせせらぎは、環境が良い。

【加藤委員】

放したわけでもないのに、カワニナもいる。

【飯尾委員】

水辺のガイドボランティアがいても良いのでは。学術的に正確ではなくとも、地元根ざした知識を伝える。

「今年はアサリが少ない」というニュースを、漁師が大変だと思うのではなく、自分の暮らしがおかしいからではと思うようにしたい。津島の実家では、山を見て天気がわかるようにと教えられた。BOD等の数値より、感性で物事がわかるようにしたい。

【神谷委員】

明治用水をクローズアップしたい。明治用水の水からメダカが入ってきたのではないか。生き物を運んできた源と考えられる。

【竹内委員】

明治用水で台地が開けたのは最近のこと。用水というが、実は川であるらしい。神社もある。日本デンマークである安城の、農業を残すべきでは。

【飯尾委員】

地方の計画では民俗学を取り入れるべきではないか。暮らしの展覧会が出来るように。ビジュアルに自分のまちの特徴がわかるようにしたい。自分の財産であると理解できる。

事務局：自分のまちという意識があればポイ捨てもなくなる。

【飯尾委員】

地元の人にはポイ捨てしない。

【鳥居委員】

これまで色々と活動してきたが、アンケート結果を見ると油ヶ淵は1/3ぐらいの人にしか理解されていない。明治用水も大切。安城の特徴としては学習、協働があるのではないか。安城市の体系図では、エネルギーはその次になる。

安城では、学習は「知らせる」ことではないか。体系図では、緑、田んぼ、浄化槽

などがあり、明治用水があって、エネルギーはその次で、下においておく。安城はエネルギーよりむしろ水が大切。

【飯尾委員】

市民を巻き込むというのは、難しい。行動ができるようにする、知ってもらうことが大切。新美南吉を使っても良い。昔はうなぎが安城市でも捕れたが、今は捕れないのは何故かとか、ごんぎつねはどうなったかとか。「おじいさんのランプ」とエネルギー問題を併せても良い。すべて安城市の財産であるので使えば良い。

【竹内委員】

小学校で見た挿絵は、追田川ではないかと思っている。

事務局：体系には、中項目、小項目等がある。資産を大切にすることは大切で、必要なことを組み込むことはわかるが、体系の中に明治用水等を入れて、市民の行動につなげるというのは、難しいのでは。

【飯尾委員】

体系に組み込むことはなく、意識を持ってもらえば良い。法定計画なので、ある程度のスキームを守ることは必要だが、市民向けの冊子では、わかるようにする。メディアを使って計画を知らせること。

事務局：一般の市民が関われるとことがわかることが大切ということか。資産が変わり、今の生活がある。今の生活で良いかということ伝える。

【飯尾委員】

今より豊かになるために、色々やっているが、実は今は豊かさを傷つけていることになっている。今後は、私ができる事を見つける必要がある。国語の教科書では答えはなく、あなたはどうか考えるか、で終わっている。教科書と同様、きっかけを作ってほしい。

事務局：体系では大項目、中項目、少項目があって、市民の方にどう取りくんでもらうかを考えている。

【飯尾委員】

取っ掛かりは何でも良い。現行計画との違いや関わり方は副市長が話されたので。

事務局：この後、市の職員の研究部会を開催するので、資産をどう扱うのか議論したい。

【飯尾委員】

市の職員は安城市をつくために動いて欲しい。

事務局：いかに市民に動いてもらうかが大切。

【飯尾委員】

自助、共助も大切。防災を含めて、環境を作るのは自分たちだということを大切に
する。名古屋市のごみ減量を議論した際、ある職員が、「これからは行政が市民参
加する時代」と言った。市民が進めて、行政は市民の後押しをする。

【竹内委員】

明治用水を入れてよいか分からないが、日本デンマークから学ぶことは大切だ。

【飯尾委員】

体系では、項目を見て安城だとわかるようにしたい。

事務局：少項目の下に施策が入るので、新しいもの、明治用水などもそこに整理さ
れる。水の学習館もそこに入る。

【飯尾委員】

環境白書も、コラム、トピックスを増やす方向にある。増やしてからは売れている。

【杉浦委員】

地産地消は、エネルギーを使わない点で環境に良い。

事務局：食べることは、目の間にあるものの問題だけではない。

【飯尾委員】

食べ物も、ごみになるパッケージが多い。

【竹内委員】

私は農業に対する考え方が違う。農業はエネルギー産業だと思う。人が何で動いて
いるか。人間を動かすエネルギーを作っているのが、低炭素に入る。市民のための
エネルギーを作っている。

【飯尾委員】

良いヒントだと思う。国がカロリーベースで自給率を出しているが、人間のエネル
ギーだから。人間のエネルギー源を外国から買っている。数字の意味を考える必要
がある。

見て面白いものを、概要版は遊んで面白いものを作る。

【竹内委員】

市の発展があるので、田んぼは今後減ると思うが、なくしてしまうのは良くない。

【飯尾委員】

先日の地震も、震源が小笠原だったから被害が小さかったが、東京都心だったら壊滅的な被害があった。

【竹内委員】

都市計画でも、水田の風が町に入るようにしたい。

【飯尾委員】

安城市は、工場と水田のどちらもあるべき。

【鳥居委員】

安城市のマンションの売りは、空気がきれい、緑がきれい、というもの。

事務局：安城市では耕作放棄地はほとんどない。

【飯尾委員】

転勤族でも、市民として参加できる活動を用意すると良い。ホテルの放流は良くないので、その他のもので。ただし、観光が盛んになると、環境は悪くなる。

【加藤委員】

魚道は、榎前でやっている。農業はいろいろなことが関わっている。

【竹内委員】

名古屋のように農地をなくすべきではない。

事務局：市のシンクタンクの研究によると、人口は将来的には減っていくと予測されている。市外から帰ってくると安城市の風が涼しいことがわかる。バランスの捕れた町にする。

【飯尾委員】

総合計画と分けて作る話ではない。市の資産を活かすことを考え、意識は総合的に持つ。林業関係で、国有林を売った話は多いが、買う話を聞かない。安城市はお金がないというが、資産を持つ事、生かす事を考えては。

【竹内委員】

安城市は、田んぼと水が資産だ。

【飯尾委員】

人も田んぼも、続いていることが資産。アグリライフのように、農業を教えてくれる所は他にはない。

事務局：刈谷市も最近始めた。

【竹内委員】

豊田市のヒートアイランド率は 9℃で、名古屋市の 7℃よりもヒートアイランドが進んでいるのは、都市部の真ん中に農地がないから。農地は残すのが使命だ。

(2) 各分野の新規施策の方向性 (資料 2) 事務局より説明

【飯尾委員】

根羽村を知らない人が多いのは、知ってもらふことを考える、これが一番の問題ではないか。知ってもらえば 8 割達成したと考えてよい。名古屋市のごみ減量もそういう考えだ。

【竹内委員】

私のところも、根羽村と交流している。市議会議員と同行すると、知らない人が多く、環境の良さに驚いている。他にも、国の補助があった時には小学生 40 人ほどを連れて行っていた。時間が経つと忘れてしまうかもしれないが、知ってもらふには、現場に行ってもらふしかないのでは。

【飯尾委員】

市民は悪くはない。御嵩町で産業廃棄物処理場が問題になった時、御嵩町の水源地へは影響ないが、下流の人たちが困るということで、御嵩町のお母さんたちが立ち上がった。上流の人たちは、水をきれいにするのを教えられてきたが、下流の人たちにはその姿は見えていない。

【竹内委員】

根羽村の村長は毎年安城市に来ている。

【飯尾委員】

上流の人のほうが熱心なのに、下流の人のほうが豊かで、人口も多いのに、知らない事が多い。

事務局：根羽村へは取材に行ったことがあるが、市の職員でも知らない人が多い。

【飯尾委員】

ボーイングの工場を見学する際、階上に上がる前にカメラを取り上げられた。企業秘密だからではなく、カメラを落とすと機体に傷ができ、莫大な損害が発生するからである。下から見ているは気づかない問題である。

【竹内委員】

平谷村の植樹も見てくると良い。

【飯尾委員】

神谷さんのフォーラムをするのも面白い。川でつながっている。相手に与える影響

は分からない。

【竹内委員】

エネルギー利用は、太陽光に偏っている。明治用水会館では、地中熱利用のヒートポンプを取り入れた。費用は高いが、半額補助がある。地下水の浅い安城市では地中熱利用を進めると良い。

【鳥居委員】

地中熱は初期投資が高い。

【竹内委員】

当初 11 年でペイできる試算だったが、実際は 20 年ぐらいはかかりそうだ。

3 その他
特になし。

(以上)